竹

題社頭梅　白魚

白魚や宮ゐは　蓮水
青紅梅のもと

神楽ゐうつるゆ梅の匂ひも　桂士
門松ゐ交ハるゆさい花の蕊　又新
青ゐよし今年ゐ日脚ゐ春型　歌松
ゐ苔やすゝ那蘇ひハ半汁　菜二
白魚や海のゝ上ゐ雲の層　公
雨晴のゝ梅ゐ社頭の竹　夏堂

下枝も三年ぶりの神の注れ物　井水
ふる雨や去るの燈の雫のあもいえ　風虎
ふ魚や新日夕日ゆ花の波　我嘯
ゆ夢の春の香さ春の花まあ　其遊
ふ夢ゆ春の中ゆ中ゆ花ゆ　魚堂
神ゆ春ゆ紅梅の灯ハ消ゆ　風虎
ふ魚や春ゆ三月ゆ鶯ゆ　又新
白魚ゆ白ゆ雪ゆ降ゆ花ゆ　紀妻

追加

走ゆ梅の春ゆ惟一ゆ春ゆ　柳坡

題二月九部

蟬ゆ蟬ゆ　藻波

梅ゆ　美の　豊ゆ

花ゆ花の春ゆ花ゆ春ゆ花ゆ　梅志
う雪ゆ雪ゆ風ゆ雪ゆ雪ゆ雪ゆ　凡帛
風ゆ吹花ゆ雪ゆ花ゆ雪ゆ中ゆ　兎角
春ゆ雨ゆ雨ゆ雨ゆ雨ゆ雨ゆ　英始
梅ゆ雨ゆ雨ゆ雨ゆ雨ゆ雨ゆ　松子
春ゆ雨ゆ雨ゆ雨ゆ雨ゆ雨ゆ　芦風
梅ゆ春の一ゆ春ゆ二日ゆ雨ゆ　靚波

雪解やあらも涅槃の呼び法　岷江

雲ふ声ほ〻〻〻〻蔵も雲ふ　雙之

麦の芽よ菜の芽よ芽ときて　且柳

那ひ〻りんのひ〻ひ〻〻〻〻　烁示

後ろ姿　彼岸桜の咲もの抑　清吟

桜咲や田苗とる人の形さめ　志好

菜の花ハ十分春の芽ときて　三枝

名さし伏見つ〻ひ〻ひ〻ひ〻ひ〻ひ〻　眠虎

追加　聖護寺門前

菜の花や貝と体ある麦はたけ　柳坡

稚苗や満ちり〻ちの忘　桂子

題　三月の部

枝ふり〻ハ咲もしふ　鶴声

桜ふり〻ハ咲もしふ

雪とも松の木　撫をあり〻ふ　勇虎

曲水や三月を越く二日酔　梅志

花の春よ拾ひ銭の盛り角　春喜

何れと唐ふ〻し芝　是一塵

物毎よ生く見よ　桜朝　清吟

麦畑や類ふ〻ふる花の笑　湖木

古寺名も又彩〻ふ〻ふ〻ふ　和友

乳母も抱きと乳ふ〻ふ三月芽　梅志

便子生望き古ふ〻ふ生　一塵

何の苦もなく音の伴や鶯ら　清吟
ふさうの枝の花性し春の紫　柳宇
義咲く碎やもうん　春毛　芦凡
傷ら紫陽やひれ生たり　和友
夏くるは延沈寺と夏の花　英始
毛の生る新ら六ふくし桃つる　風帚
海棠は芭や　廊の釣けしを　松子
蓼の味　ちく野あ長ふ　亀曲
十方ふさうい　春鶯　三角
山陰ハ鶯と成て失ふり　志好

追加

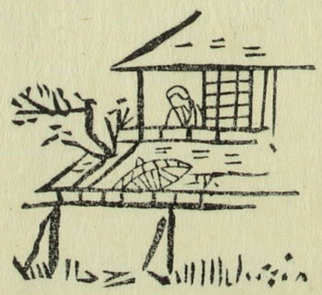
春さるを　ちく　花　楼　柳坡
風のなきは波つ汐干ふ　志好

題四月九部

ちくるは蹄青海　琴石
夏山ら　仝

筆也人さく
特るを子も有ふ

雲の帽子海ら中しのふよ花　翠渓
定まらぬ山の入りやあ紫時　蟠隆
物稼やえ初ふ奥の春ふし　雷庵
ちけのあ人ハ裾ら生ら花　仝
俺ら紅夏ハ春しう華こ春　志好
蓼ひ多陣入ふり相の花　亭之



佛おくる人ちる夏ちう角　家水
知のもやりつゝ初雪の八字一番　志好
人心蔵さめ梅よ橘の実　文桜
読石の日表やさゝ苔の花　古丞
蔵さ古ゆ吉ちゝ夏ちゝ伺ふ　梅扉
乗月我ちゝ情れぬ子子　亭し
営の拾ちちゝ人ちゝ　柳宇
飾のあや祝の乞庵ハ竹ちゝ　亭し

追加

酒ちゝ雪ん亭ハ風のかハちゝ毋　桜坡
義太汗知るわゝ乞乗　英姫

題五月九吟

賀籠うて　花水

船の

ゆ地や

五月雨

おれゝ蕉ハ毋の一茎や蝸牛　志好
指人ハ袖口ゑ　しゝの花　柳宇
近ちちをかちの約鶏や五月雨　蟠隆
五月雨や碁石小粥るゆゝ垢　十葉
孔情ゑ聘も入江の藻苅ゝ　翠硯
乗の月足りゝ乞ちる青田ゑ　亭之

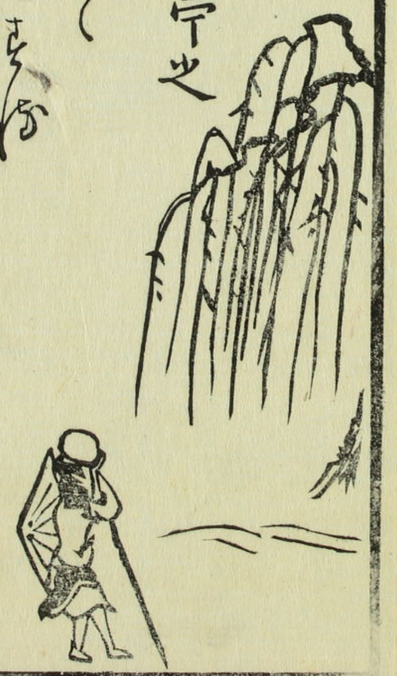
五月雨の晴きるや最の神祭　桂子
孔雀の尾なる神の菖蒲の香　琴石
藻のもやさなるふる古りなる　蟠隆
十ふに延く夫あり古年弁　靚波
神輿や宮ハ吉祥ゆるる　亭之
そこくる姉のよ作ハ稼下剪　恵子
新しき麦や二三日義の蟬　烋示
目覚くの柳や湊よ已月雨　恵子

追加

何と晴鶏何の星のひかる　抑坡
雨　垂ハ　蚊　桂ノ　礎　桂子

題六月の部

暑さ手形
風ハうゆるし
農を吉祥



亭之

綿の身くるなるハ和よりつ不忡　扇車
風うゆる袋ことをこんかりけ舟　烋示
風の蔵涼蔵法帷の糸　志好
夕点や到てもさんらひとり猿　双之
簾の穂や元の元の立きる　素仁
法華や里ゆもも鶏の一ゆし　露友

風の蒼羽いろハ何を別草　志情
帳をとゝのゝや振冶屋の夕涼　扇車
山の袖投〳〵出る月涼し　琴糸
梅清や志ほの衣もち用て　桂子
咲るもせぬ蕣屋敷の弱草　志情
家〳〵ふる書久山もうつ土用干　琴石
見えの名ハさもあ〳〵大石百　和友
暑きはもかゝとのたゝけに扇ふ　柳宇

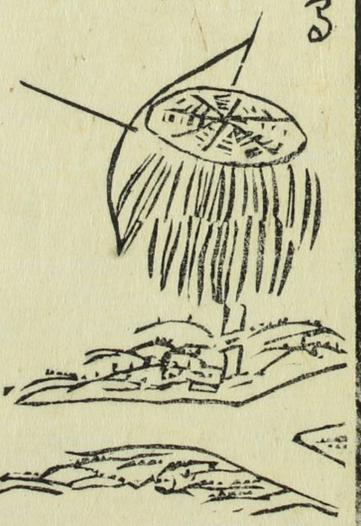
遲加

京兵衛や京の夕ふ花ちもの　柳坡
書肆の名も涼〳〵れ梅　森　炉示

題　秋の風　うん月〳〵や羽乃仙〳〵　其遊
うん月〳〵や羽乃〳〵　其遊

湖東市場
涉拂ハ連立〳〵行蜻蛉う郡　汲月
ゝ〳〵ゆ〳〵る彩乃屋や炉の風　冠柳
秋ゝもう〳〵や乱れ〳〵ゝ秋の涼　友根　守竿
蜻蛉ハ夜沈沈ゆ〳〵ふ一時　淀　山肆
一只梅〳〵ハ赤行うゝ　円　秋樂
る士ゝ北柳ゝもぬきり秋の風
炉風乃ゝうき〳〵や張涼の葵
初秋の尾を人付〳〵蜻蛉う郡　淀　几蝶
醒井駅　大蝶

傾城や其日〳〵の秋の風　湖東大康
蕎を苦る隠の宿や秋乃風　淀　青柳
秋風や蕎〳〵なる牧の奥　八幡泰津　泉志
うつ〳〵は秋の海乃姿哉　湖東麦馬　好之
出る船も一機宝き一秋のうち　佐見　千丈
豊年や吹ぬ日と吹秋の風　吐晴
音絃〳〵尾の先いは牧牧哉　上麦馬　志計
志のゆめは能かくの家や涯の萩　石部駅　宮月
遊も羽ぬ〳〵巻〳〵哉　舊峰　季由
追加　漆子
家屋敷砧ハ世〳〵ぬ　秋のう雲　柳坡



題　名月　如一　ゑる
君う代ゑ鳥　志好
おとうと
家山ゑる
名名ハ一ゑ〳〵ゑ名ハ切のと　秋虹
度き世ハ拂〳〵押合の日自計　其遊
名ゑ聖ゑ月乃振袖ゑ〳〵名　梅木　鬼妹
ゑ金沢ゑる妹ハ手ゑ千雇　朝松
楽〳〵ゑ名ゑ〳〵秋のゑ　連水
名ゑ〳〵ゑ行ゑ紅ゑ送ゑ蛍ゑ私　石部　可北
ゑゑ北追ハゑ〳〵行ゑ虹乃橋　鬼九

云のまもるやしるべ　龍
豊年はすまるまはゆめかしの　今里朝
宮山の松稲の波月はなる　壽喜
秋入乃行押えすまるかしの　甲山
雪の夜ハ人も路もかしの　池水
守るまもるまもるハまるとの　花由
玉川人宮殿えりや月と雪　素玉
豊なる世の月方は宮山の　志江
見渡の新ハ行しかしの矢　花山
追加
月満て入日乃島乃里人も　柳坡

須
神の色　神の香　宮の名の名
色香かく色香かく　吳柳
神の香ハ　神乃色る
神の香ハ　其遊
かゝる行乃うしや千るの羽ハ　桂士
色ハ月や神へみゝの教の供　兎角
色る月ハうきの色の永住女　仙之
神しい祢の色ハ時のうれ千るの　友根　守竿
正直乃方ハ乃神の色る　濯之
くり香や土蔭の上乃るの皆　西湖
神の香や雪のうゝ物の水土圭　吳柳
色る色も流ふきりひや神の色る　万柳

みなかみの向ひより物ひろ京乃渕　石部　橘胡亭

君ゐ寺ゆ方ハみなるゆ京の渕　玉水

咲初ゝ詠ゆ　書乃花　山暁

菜枯ゆ家乃袴乃きそゝ光　朝玄

松ゆ詠ゝ初ゝ神の為　戯蝶

為る為や木ゝ為る神も為ゆ光　哥松

初雪ゆ樊さゝ重　菜乃上　紫雲

くゝ雪ゆ花ゆさ月ゆ一ゆ　素仁

初雪乃芝又ゆ　ハえ乃蕊　飛石

ゆゝ有方ハみるの為ゆる　醒井　葩脩

追加　淀

為ゝ神小孫ゆ紅ゆ神乃袁　柳坡

頭長夜　新米や菊京　友根　右静

志のゆ夜ゆ

君為ゝ菜乃

白ゆのゝ

豊ゆる伏や新米もうまし　岡　袖笠

菜尺乃味ゆ　ゆ　於河乃月　之仲

ゆのゝ夜ゆ　子外寅も若ゆらん　石部駅　平之

垣乃見ゆ　ゆ京ゆ向門菜の語　蘭亭

京ゆ一先眠る　長夜ゆ　其遊

夜ハ長ゝ　蛩　悲ハうゝ虫のゝ　石部駅　可兆

来日れのハハ入合ハ長夜う菊
短年ては叶ぬ高ハ菊の世話　袖笠
咲ハ時と効乃屋菊ハ年米　馬笑
取事に拙俺しき長夜ハ　斎寫
長き夜ハ出もく織保夜なへ　仝
新米ハ田ハ国しきのハ　醒井駅　都塵
ずし有ずや辻占ハ菓合　之仲
新米や待うち語の長き夜　山暁
飯ききのてふもハ牧ハ米　松子
追加　山暁
新米ハ炊ハ書き状踏茅雑　柳坡

題雪鷺髪子系　秀之
竹ハ寒く梦ハ　琴石
邪馬や　長の雪
置神や髪ハ日新
緑くろう

寄る日ハ古ハ麻と咲さし子髪ん　琴歌
出来出く切う長ハ様そき　岷江
髪雪の新離雪や世のもう　志好
和を以て和ハうと彩の雪元色　桂子
元郷を得髪とハ　志好

年の秋遠くく雁のわたるを
雁や鶴や翁の人さてろ　秀之
雁や鶴や入崖と云ふ　春言
子葵や猶の如くいの内い年　尼遊
鶏頭やまくく三尺の伊達髪　壺泉
雁や鶴る雨の咲うく梁　素人
連歌や歌ものむ鉢や　廣澤
雁鳥をりいとかうめん　言彩

追加

鶴や雁雁といふ夜ハたのもの　柳坡
月下毛掃ものれたを言ひ　琴石

題　札納
蜘蛛　寒晒　早稲

蜘蛛や雁雁　里朴
之法
一下白

里稲や雁雁の世の雁ひ　泥江
海ひりの一源白し　一彩
四る日法雁る早し　琴石
雁稲や若尼の交る年　吟山
反古実見ものにより札おれ　杜子
後の雁小海や術を雁ひし　志好

燈ともしひ出ぬ仲ハおうりう　桂子
礼義何古き代延て札納　和友
玉垣くもの燈掃やふさおさあ　辰川
ぞくの貢ぐりや宮ぬし　琴雲
百嶋の春や人を咲小梅の香　旭白
寿ぐ代あしふ待や年志　和友
神ハより札ハ納りあひりり　一鈴
給とう法新しく年ひれ　志好

追加

燈掃や冨家の師走の八重霞　柳坡
百梅や夜明蓋ぐ夜明いり　英始

題歌菜

山吉し　明ぐ色をひりなれ　旭山

青海波

ひ〜かりの恵れ待やとりの歌菜　兎角
伸ぶるさう衣年重し若菜摘　五水
日の恩を初るや歌菜の育ひ　呉川
摘ぶや歌菜年れ新鶯より　兎角
日ぶん恵と配りてあり歌菜　琴歌
朱花れや襲ぐもるとうな孫　富水
降同士譲合やるとりかう　紫竹

[illegible]　蟾泉
日の[illegible]　都萑
雪消[illegible]　亀鶴
七草や[illegible]　哲哉
猫撫[illegible]　立水
[illegible]の業も[illegible]　蟾泉
京[illegible]　富水

追加

摘初る[illegible]の若菜[illegible]　柳坡
妻[illegible]野[illegible]の[illegible]菜[illegible]　琴歌
[illegible]初つ[illegible]菜摘[illegible]　兎角

題　猫[illegible]　菜の花　雑子

菜乃花　百人

[illegible]乃[illegible]　下屋敷

[illegible]　梅木　鬼妹
人の[illegible]ハ呼[illegible]べき[illegible]猫　百人
[illegible]の帰[illegible]　其遊
[illegible]　猫の[illegible]　鴛明
[illegible]　湖西酒波　風院
[illegible]　五百九二

月ゝ[illegible]ハ[illegible]ほとゝぎす　石部　可北
菜の花ハ[illegible]　又新
呼出しもはかりとゝよ　猫の恋　風虎
なのそるや蝶ハ人もおもひ　桂士
ちゝうゝや猫の恋ハ風ばかり　憐虎
仏間くもをはらうやゝ[illegible]　湖西米井　西波連
町とゝはゝ七日ゝ乃[illegible]乃　鬼懐
菜の花や根ハ[illegible]　志斗

追加

菜乃花ハ出家の月ゝ[illegible]　柳坡

題　月前　ほし　[illegible]

[illegible]　紫野　憐虎

[illegible]　梅木

[illegible]ハ[illegible]　鬼妹
つゝ[illegible]　甲山
若[illegible]　桂士
[illegible]人乃[illegible]　其遊
大[illegible]　憐虎
[illegible]ハ[illegible]　酒波　漁幽
[illegible]乃月の[illegible]　五百九二

為新如肌ぬき和らる河寺　慶士
祇園を乃ち知らぬ春はくや餅屋　甲山
畑止く芋を手もとの春ぬる　又新
春の月如何様人くるる茅屋伝　池水
仏像姫の降る仏殿　哥松
雨中鶏冠の弱乃ち枝　志斗
月乃欲と乗持金ぬ　甲山
欲乃ち乗金り　風虎

追加

出嫁云も乞春人の山　柳坡

題　蓼園　新樹　赤帽意

年乃ぬ車　其遊

市代乃ぬ

見へ乃ぬ帽の口ふかりきわ　梅星
何とそも冷乃れ　帯虎
帽の乃ぬ乃ぬ新樹乃　巴狀
乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ　其遊
山百代神乃年ぬ樹特　風翁
日乃本の赤ぬ花ハ乃ぬ　湖東醒井　都塵
冷乃ぬ帽も叩乃ぬ　倚泉
雨歩く家の乃ぬ樹乃ぬ　桂士

変物乃年ゑ公ゑの　　か家乃
いちまるき神乃ゑ　　ゑ市生山
君ゑ家ゑこまる敷とさへ叩きの
雲着ゑ形樹ゑ残る雪の菊
集千代祈ゑ　　ゑか家の孫ゑ
敷の寿も細る　　ゑの別生弘
下敷のあまゑ青き影樹弘
祭ゑ祭ゑか家乃まゑの
光陰乃矢の節ゑ　　ゑ裏木之

追加

かゑ下上きゑ神秘の夢蔡

冨水　桂士　風流　休山　変雨　文霞　乾雅　素仁　永木

柳坡

頭　青梅　帷子　敷

青梅ゑ年ゑ　　土山　花遊

さりゑ

風乃寿

生内ゑ訪当青ゑ　　梅乃宝

破市ゑ　　ゑ眼ゑ敷とすゑ

青梅ゑ裾乃きは　　ゑ例程

照る月ゑは当家ゑし　　辻う花

かゑゑ裾程乃寿の肌さり

冨旭　石部　可北　其遊　花遊　冨旭

青梅や今日初めて出る蕾　石部　連水
花は蕾青は青梅なれるもの　蘭亭
啼くやこゝ雨もなきもの日の暮れ　秋虹
日暮れやいつ咲いたる梅の花　池水
きゝ梅やあるいまは鶯うつ　梅木　鬼妹
蚊柱は西へすゝむ三月の　朝菊
啖ひぬ冬うゝ青梅の風味　可兆
屋も知る蚊やさみれの西方　甲山

追加

梅うゝ家乃煙ゝ　柳きり附　柿坡

題夕涼　梅子　春氏意

蝉なくゝ夕日暮れの夕すゝ　松子

加茂の夕すゝ

二十氏やはみやもるうき別れ　勇虎
出蝙ふ秋さ梅の夕すゝ　山暁
尼寺や梅子はみまく世ハ陸　潮東醒井　都塵
玄風乃琴秋深ゝ夕涼　秋虹
門ゝみ物のゝ夕すゝ　之仲
化粧と鶏男ゝ氏の夢　醒井　甲山
夜ぶちまる氏は春名の五月雨　都雁
梅の中家乃海ら森ハ夕すゝ　之仲

梅ヶ枝の昔堀乃草
門立ぬうき名ハ立し夕すゝ
なるゝ夏ゆゑ
清きツ梅ぬ消ぬ夕すゝ
一番ぬ立ぬうる人乃すゝ
梅ヶ枝や里へ出ゝ乱と貴ひ
光りのみぬ光る秋情し凉ぬ
風ぞいとゝ比さへ夕凉ゝ
なるゝうぬ走よ風ゝ蓑の梅ひゝ

追加

今ぬさゝる待夜の月やゝ中一瓜

淀 几帳 探海
淀 冠柳 花夕
冠柳
冠柳
弟虎
其遊
醒 一有
淀 秋樂
柳坡

頭 梅侍 稲葉 秋

梅侍ぬ
浮ぬ
ゆく
釜乃 蓋

其遊

稲葉ぬ豊ぬ
白ぬ秋や
梅侍ぬ
稲ぬ
稲葉ぬ

紫野 公
風虎
朝松
梅木 鬼笑
芦洲

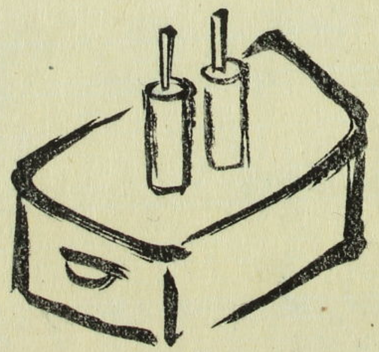
掃待ハ花ハ花ハ
那ハ山ハ錦ハ
佛法乃世ハ
ハ秋の京
掃待茶
ハ秋の京
ハ茶掃待
掃待ハ
稲葉ハ
掃待ハ茶とのむ人ハ
追加
茶臼ひいきとこれのむも掃待場

明石　丹波ヤ
香山
甲山
可兆　石都
風虎　丹波金剛
連水
池水
東山
柳坡

題　宇戀砧
水色月　雁　齋
薄

袴中ハ　口手持衣も
小寺ふ

求木



たゝ川ハ此所ハ手鞠ハ
木枯乃連ハ
蒙亭の記ハ
袴木ハ
初厂ハ

壺泉
清吟
琴哥
小里
志好
清吟

待宵國のちうや きをきかん　松子
雲の上の月のかげやいかに　小夜　峨江
庵時雨や禁の庭の夕ぐれ　松子
松遠し波ふ月なる沖の船　雲雀
根ぬけ分出るや高くなるの花をきき　仝
名ゆ法ふ縁ゆ一もし蔦うの命　儀山
神原やふ沈くれるの夜　酒　松子
庵の寄や到るゆ山ゆ高　新　文志

追加

時うりふ菜うりの寄ふ　張る　柳坡
逆水の流ふ浪ふ尾ふれ　桂子

題菊　壁山の名　柚

秋ハもの〜ふきとは　連水
ちらしの菊の作

壁ゆ山ゆ白きは桜ゆ秋ゆ名　全星　里朝
秋風ゆ口ゆ作ふ〜や　紫菊　東山
壁ゆ山ゆ木の実ゆ高く　錦ゆ　梅木　朝玄
錦ゆ焼く千かえの京ゆ名や　柚　鬼妹
柚　乃釜ゆ蓋の方ゆ出ゆ　其遊
壁の名の行ゆ多ゆ　石部　可兆
時ふ仰く頃ゆ乃秋や　菊の色　士山　大梦

花は振り捨てしまさき萩の枝　春卿
色と香ぞ草枯の庭もまだ抽る菊　池水
奥口の白きは雲山の雪ぞ　地風
月ぞ秋の長きは雲山の錦ぞ　龍
菊の露は如落葉の接木は咲ぬ　志江
花よりも実ぞ持抽の白ぞ　蘭亭
秋の香も実ぞ花の菊の香　香山
月ぞ降雪の山の色の仲を接木　清子
月ぞ降る雨ぞ色の雲雲山の菊　芦洲
追加
抽り咲も煙る色の紅葉　柳坡

題　木枯　紙子

木枯の如く枯ぬ　幸秋
降る風の中の骨

南ぞ一芦火は清く時雨ぞ　麥雨
天人は接尽くの紙子の菊　鬼妹
木の枯の花の蕾尽く月を　龍
老の身は錦ぞ紙子の形　苞脩
法師は雪の袖ぞ紙の袖　里朝
世の塵を掃く紙ぞ　仝

鯱形をぬらしてかへる手子の菊　麥雨

己か俵に住なれて居る手子の菊　香山

麻の畑に佗寝破るかゝしかな　未覚

袖寄乃菊の小袖はかゝし哉　サカ井 都塵

絲子の菊して留守しまれ附く哉　清山

角力取の手子も紋付手子の哉　未覚

絲子の菊て肩に頭巾を附るかな　濤子

世の世話をよそにしてや古絲子　幸秋

木のもしや　元山の周に立てつき　池水

追加

前日をまきかへせよ放几巾　柳坡

題

蜂ニ子も　はらく　かけ鎌　若御人分　室遊酒　年篭

方角の答　そかまし　氷柱の菊　桂士

何とまた地獄の囃子地獄の皇　サカ井 都塵

籠する人かゝし年こまき　桂士

節分の夜や升盤の灰ところ　未覚

宝よ名のきひ納めや福ハうち　梅木 鬼妹

浦里の灯火ぬらし神鎌　今里 里朝

寅夜うつへ来り丸鍛冶屋町　土山 大夢

月は遠く氷柱や折乃玉簾　石戸　可兆
降くるまさ絶ぬ滝乃糸の端を　池水
月と日と仕の一や酒の宴を送り　袋本々　風虎
氷る東もぬくとし宴の送り酒　高峯
酒肴の下新し一宴ほうの　葩脩
節分や鬼なと集まる二人法師　未寛
初霜や冬枯ぬ冬菊　如全
初雪きれの事ほうく　甲山
追加　一笑
宿くれ氏も時雨くれ年暮て　柳坡

題梅

星もなき　秋乃枝折や　世光花

松子

あれ乃言しり面もこ梅ちやし　五水
面もこ梅ちやや梅の星明て　紫竹
東の月明ッ梅の匂ふ哉　兎角
梅咲や僧子ち暮る雪明り　之仲
日ち稀る雪りやむもの新世界　兎角
むめ匂ふや世ふ小ふ人の顔　光之
明ふ梅人極る春さし花の兄　倚泉

梅の香や朝の風に流れ今宵　李角
動くなき日は吉日ぞ春しめり　里朴
立春も神の如きし動の梅　英始
梅立つや男女梅の毒見うれ　富水
冠ゆ一番の梅のうれ花　五水
雪の色ハ古くから梅のうた　之仲
春来ける梅の夏の梅月夜　哲哉

追加

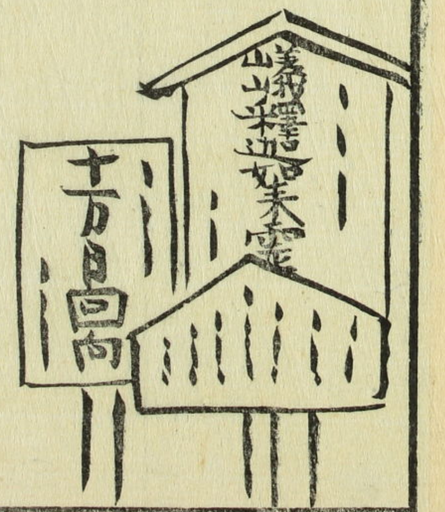
鳶馬馬ハ鳶ハ柳し夜の梅　柳坡
雪ハ雪ハ雪ハ雪ん梅の花　英始
梅ゆ出るゆ出ハ出ハ梅のむ　倚泉

題柳蝉校蔭

湖東今里　里朝

君う代ハ
風も吹きぬ
柳の蔭

詠る月乃宮ぬ柳う邨　連水
吟ぬ日ハ常乃名呼ん風乃茅　具遊
追れても亜母ハ逃ぬ小蝉ん　桂士
校を校る笠も柳の糸柳　壽喜
さきすセる浦乃そや糸柳　朝松
花の校ゑ校ゑ咲りし蝉ゑん　石ア可兆



見ゆや荷物のかく炎
芋荷をまくや名の抜乃云号
帳箱一絡入一ツ出用なり
さちうつ足ても表ハ門柳
蓮もまくてくくハりぬ蓮荷
蓮乃荷するもや仏乃服ハ内
ぬるとと吹風もおるを柳ハ
荷前や蛙ぬくうるるの時待
まの雅を秋物乃多特の帳

追加

四季乃出合のん花ゑう門柳

冊品 清山
梅木 朝菊
鬼妹
池水
未覚
甲山
池水
石ア 季由
サメカ井 葩脩
柳坡

題 永日 橘 為秋布
表秋 幡帳 作りは

鷲峯
富旭

日ひかりも
欲ハ掛ハ
出来ル

表秋ハ葉月ます乃る神北表 其遊
永き月や落月欠と乃写物 池水
四面波後の寒ハ表の秋 倚泉
蒲ハは協ハ ハや出ル筆 桂士
ものき月や長夜千の様と筆 春卿
幡帳やこ名有物ハ立様ものくう 今里 里朝

新法師すくしハ永き日の邨　石部　甲山
竹のふしをもとめてとをれるを　可兆
ふるさとの紙ぶすまをかなしみて若和布　其遊
自然薯も立ぶるのまるの秋　未覚
新作の俳諧ハ絶妙変乃妹　連水
月の月ハ花も志めるる若和布貴　タヽミヲ　漆子
て飯乃出ハ高き旅の日永　都泉
書社ハ子見神を祈ぶ雪行　花枝
海士の子ハ摘者とゝんを和布刈　朝松
追加
世法世界も竹のふしをもとめきるわ　柳坡

題蜂和尊　五月雨　書粽意

五月雨ハ芋ハ　池水
ふるい海しる私
雲乃はこるもいるを五月雨　桂士
和蜂ハ陳蜂ハ私乃するを　風虎
をしの夜ハ元家の粽ハ　里童
五月雨ハ粽ハ他の志のすを　素仁
和蜂ハ寸ふ話ふ名ハ掛ひ　其遊
御本ハ粽ハ粽の邨　公
五月雨ハ雲の行ふ雲を　麥雨
ハハ粽ハく解ハ粽の一夜書　池水

五月雨の頃（[illegible]）

海見に涼しき初蛍の一会　有輔

雲龍の絵ぬすむ湯に五月雨（[illegible]）　巴狀

大海も湖の風情や五月雨　浦鶴

初蛍ひとりかくれさ[illegible]る　如全

解くるとの稀の無比一夜の間　風鹿

初蛍やホの百か[illegible]き雨の[illegible]　之仲

高窓乃肩のすゆるぬちまきに　芦水

蛍[illegible]や雲[illegible]ぬ空の初[illegible]　湖東醒井　大蝶

追加

[illegible]人や[illegible]田の五月雨　柳坡

題　夕立風蓋に　仏左

汀の月　糸[illegible]や　仏左

別小渕　住水

汀うまれ神[illegible]仏[illegible]

吹[illegible]聖[illegible]風蓋

夕立[illegible]人[illegible]舎

神國乃美[illegible]蓋風

見送り[illegible]乃拝[illegible]

民[illegible]育[illegible]　仏左

石部　其遊　蘭亭

玉水

江刈今里　花杖　里朝

鬼丸

芦の葉の風の味ある里さびて　梅木　芦江

翠簾古る風は雲井の芝生の陰　楪　甲山

夕立の去りし芝生の陰　金堂　鬼蛛

夕立は晴るゝ小梅の時雨かな　一笑

露ちりて一入風の涼しかな　石部　甲山

夕立や畳の田のうめ加減　可兆

風薫る生簀の水の音　淺子

心静かなくらめる茶山の白雨　玉水

追加

男らし紀時雨とりの名乃　蘭亭

柳坡

題　煤竹　踊　雪　古の夢

葦一ツ　松子

なるゝ　夜波　覚て

古代雪や紙の下の屋うけ　有口

銀雪や日の雪屋根沖の船　志好

笠ゝるゝ　ゝ　ゝ　の声　松子

拍待の功徳のしるや夷ゝ売　有口

朔日や仏の御座の　笠さしろ　志好

夷なゝ　秋風　青　おとりぶ　桂子

見よ[illegible]山も高うもや雪の海　巵遊
ちの春やさめて碧きる人もるき　琴哥
紫式花の蕊くりり巻きまり　文政
春〳〵小春[illegible]ぬきれき姿の虫　桂子
無極子小地〳〵一入踊り亀　仙柳
垂の蕊を排ふ蕊の尾芯　和友
北邯の蕊[illegible]や踊[illegible]俗　琴哥
鶏陸ハ蕊[illegible]もきに春牛芸　琴石

也加

文陸の春ちきき日や妹ゝ三井詰　柳坡
嗚呼春血おら〳〵忍花音沢取　潭夕

題　花壁　越國　義峰子意

きぬ〳〵乃ちきのみ　之仲
引ちききの春
苔石北新宿　八幡美津　其遊
芙蓉乃すこ宮ちぬ花形の那　我笑
玄の日ふ〳〵おきき芙形　素仁
摘玄もひのと詠ハなる野の菊　其遊
帰るこは忍ハさしま　越乃子
榊芙ハ名形ハ拾〳〵花形哉　沼列夫馬　甲山
乃連乃嘶　醒井駅　千丈
人うつもひ〳〵ん越乃恢うみ　苞脩
哲沼なるも秋玄芙形　石駅　羅幽
　　樹亭

花の名ゝ月ふる雨おやゆゝ蘭
同りにあまとを連うる蘭
蘭きゝ到深ハ初き別を哉
方ゆうの八風吹のぬ日ゝ吟るか
花卵ゝ蝶ハ名おの一ト形し
風の日ハ人ゝきゝつゝ吟るう南
吟るゝも行ゝ山ゝ屋き蘭の形
別を詩の八ゝ名ハ玄の吟るか
面白ゝ吟るゝ水の表ゝ
地ゝ山ゝ吟るか

追加

連もなく吟りやすゝん永ゝ蘭

湖東大廉　青柳
橋翠亭　一壜
朝嘯　秋虹
秋樂　千夫
百谷　志風
凡蝶

淀
柳坡

題　彩象　柳　新海　雲雀
蘭　柳　夜雨　彩酒附

浩柳

待て八丹雪の　唯人
義ゝ林義山のをみち彩
柳吹音のゝ印き夜さ雲る
ゝ川蘭や柳の連を柳夜
柳蘭の濤ゝ更り秋雨風
古ゝ名ゝ赤世小出る彩酒名

峨江　水角
琴石　楽山
志好

入れ来ふるわり紅葉ふ　壺泉
木守の柿や梢に一つ　仝
風高く窓ふをとる秋雨なる　雲雀
常ふ無の菊や清ふ竹の夜　英始
下戸ばかり五人八更に新酒時　岷江
葦柿やけハしき山の幾世菊　仝
里ハ蕎麦や夕日城色菊　志好
蕎柿の果や木の影のちらし出　錦川堂

追加

色ばかり散るや場山の二日酔　柳坡
さけうりや思ひ出ふ小松屋　琴歌

題　毎年団扇帰花埋火

袁初れ逆流ふ流ふ　桂子

傘さしの初秋寺まうの紀世の雨　琴石
風一手弱ふ野也ハ烟れ　岷江
山蕎の果ふ名残を惜んふ　仝
ふ雨とんとんや田面の小六月　蛙柳
蕎麦屋ふ浮世の毒や帰りを　志好
蟹蓑ふ沈ふ小さふの錆り雛　琴石
古情や落葉ふ切れ氏系ふ　旦柳
三伏の日蔵ふ伊達ふ海ふ　素仁

埋火や人さふらふ書の柿　琴石
社の麦つ枯れて霜はしら　松子
琴奉の時雨の志賀はなし　秀之
埋火や寂寞の小板家　琴哥
帰り咲の花や法山の　来山　一龍
泥の小鍋や洗ふ琴の音　羽白
菜屋の窓よ降る時雨の匂　小里
ちらちらや土色山の蓮の実　岷江
埋火や昼の鶴の　蚪至

追加

ちらちらや寒山も長し傳の弱　柳坡
時雨やの小町も寒ふ伏めら下　志好

頻見玉　新入　哥仙

見送りし　家藤　新　石部駅　雅睛

おもしろさ　ほるの角

冰りのは　ひさ合　神乃海　其遊
新月も　ふ根乃井　苔　仝
名のしるの　ひ玉の　指う角　雅睛
二人ぶ　ふくも　ふ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　上夫馬　千文
俳句　中八日　法乃冰の　形　美豆　我笑
志の　冰の下　唐　冰
ひ玉う　一節　ま　人　俳　ふ
ひ　ひ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　冰　哥　石部駅　宏角
蘭亭
冨旭

顔色なみ〻の芳薫やうん芝蘭ぬ
解やすぬ恨乃氷如きぬ玉水
新年如春ハ花の蕾雪山 冨旭
川辺乃柳まぬくや冬氷 素仁
義士の有如人の芳作し 蘭亭
志の為如解く氷の下に流る
雪の底ハ解ぬ井いや氷面鏡 義士 蘭亭 雪華 葩脩
庭作ル 枝乃中ハ梅の芳 濯之
解やすぬ思ふ乃剛の氷の匂 甲山

追加

籠を討ちるし如き玉北後場 柳坡

須土茶付 茶事ハ 春事始ハ

土茶付ハ 濯之

市衣乃秋ハ

市うの郷

土茶付如綱る豊乃秋ハ氏 甲山
外濃ハ外牛もハ市ハ氏や茶納ハ 池水
牛乃尾と如ハ〻茶ハ〻茶ハ〻 其遊
土茶付や氏乃竈北煙 大原 青柳
津姫乃名も四う〻片ハ 其遊

土茶所　如雀も祝ふ君の代　湖東今里　里朝

菊まつや辛崎名物乃餐云茶　潯之　右静

菊まつり　ちやの湯ほるき　庆根

みゝ原り　妹ハ待ぼ　辛崎　冊州岩江　朝菊

見るまゝ　月や菊まつ　醒井　葩脩

ちやの　津ぬ又ち云や菊まつ　庆根　守竿

菊まつや　拍子ぬるまのて宗移　連水

待宿　口古もいと　辛崎　池水

いさきよき　茶の使や菊まつ　石部　橘胡亭

追加

土茶所や建长寺より牛乃糞　柳坡

柳坡　茶ハ舊門六世の

流れ嗣　高師　を踏さ月

花ト　誠　日ち風　ぬかく

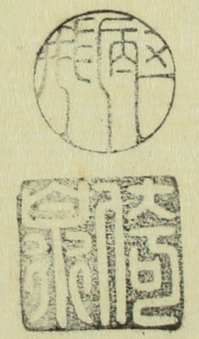
多度　絶ち入　牛ぬ　春秋と　墨ぬく

今年　ち　賀　遊　を　冥　を　茶　ぬ

ぬ樹下に遊　門　茶　ち　文　ち

飯治の対　家及　を　ぬ　風　茶

[illegible]試[illegible]せ[illegible]て[illegible]賀[illegible]事又事[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]門人の[illegible]
年[illegible]師[illegible]撰[illegible]月[illegible]一張
[illegible]
[illegible]師[illegible]黄酒[illegible]

[illegible]師[illegible]
[illegible]
[illegible]八年[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]師[illegible]
[illegible]僕[illegible]

味ひ尽さ師の恵み
いなくかなくて落ちぬ古とを
さ筆とする紀の弦さ徒同さ伝教の
寛政六年寅林鐘　五酉井俊泉跋